

令和2年度 府立菟道高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）最終評価

R3. 3. 18

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>1) 集団の中で切磋琢磨し人格の形成を図る。</p> <p>2) 個人の尊厳を重んじ、知・徳・体の調和のとれた発達を図る。</p> <p>3) 地域に根ざした一層豊かな学校文化、「菟道文化」の創造を図る。</p>	<p>○ 落ち着いた学習環境を維持し、あらゆる教育活動において粘り強い指導を行った。学校評価アンケートでは教育活動について一定の評価が得られた。</p> <p>○ スマートスクール推進校の指定を受け電子黒板等の設備が整い、ICT活用を意欲的に推進することができた。また公開授業等の授業交流を通して教科指導力の向上を図った。授業改善に向けた取組は継続する必要がある。</p> <p>○ 部活動では多くの生徒が積極的に活動し近畿総合文化祭をはじめ様々な場面で活躍した。学習との両立を図るため部活動顧問と担任・教科担当が連携し、同じ方向性で丁寧な指導をしていく必要がある。</p> <p>○ 特色化事業やUJI学において生徒は真摯に、かつ意欲的に取り組むことができています。学年、担当分掌、教科等の連携により、取り組み時間の確保や担当者間での調整が継続して必要であり、さらに総合的な探究の時間への移行の工夫が課題である。</p> <p>○ 外部機関とも連携しながら心身に悩みを抱える生徒や特別支援を要する生徒への指導を行った。今後も全教職員の知識と技能のスキルアップを目指す。</p> <p>○ 広報活動では、学校公開・説明会・HP等の中で本校の魅力発信のために、在籍生徒の教育活動や学校生活の様子をさらに効果的に発信することが課題である。</p> <p>○ 希望進路実現に向けて最後まで粘り強く丁寧な指導を続けた。納得のいく進路実現のため全校体制で3月まで指導していく組織作りが必要である。</p> <p>○ 感染症拡大防止のため度重なる予定変更を行ったが、生徒・保護者の冷静な判断と落ち着いた行動により大きな混乱なく学年末までの学習を継続することができた。</p>	<p>○ 生徒が安心して堂々と真面目な高校生活が送れる落ち着いた学習環境を維持する。</p> <p>○ 人生100年時代に入り、10年後はもとより生涯にわたって力強く、より良く生きていける人間となるよう、「知」「徳」「体」のバランスがとれた生徒の育成を図る。</p> <p>○ ICTを用いた授業についての研究をさらに進め、質の高い授業をはじめとする全ての教育活動を通して、組織的で計画性のある、丁寧で粘り強い指導を行い、学力向上と進路希望の実現を目指す。</p> <p>○ 家庭学習習慣、読書習慣の確立を目指す。</p> <p>○ 「チーム菟道」という言葉に象徴される、思いやりや感謝の心を持ち、社会や集団内で各自の役割をしっかりと果たし、互いに切磋琢磨する生徒を育む。</p> <p>○ 学習と両立できる、はじめある部活動の実践により、チャレンジ精神旺盛な生徒及び集団を育成する。</p> <p>○ 種々の課題を抱える生徒に対し、手厚い指導を行い、安心して学校生活を送れるような指導体制を整える。</p> <p>○ 特色化事業やUJI学における教科横断的で多様な知識や経験を通して国際社会で活躍できる力の基礎を育む。</p> <p>○ 本校の魅力や特色について情報発信の方法や内容を工夫し地域や中学生の理解と信頼を得る。</p> <p>○ 生徒、教職員にとって「楽」ではないが「楽」しい学校を目指す。</p>

評価領域 (分掌領域)	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
			項目	総合	
教務部	<p>・一人一人の希望進路を実現させるため、生徒の学力に応じた質の高い授業が行えるように教科指導力の向上を図る。</p> <p>・昨年度に引き続き、新学習指導要領や大学入試改革に対応するため、「主体的・対話的で深い学び」、「高大接続システム」及び「ICTを用いた授業」について研究を進める。</p> <p>・令和4年度実施の「教育課程」と「探究型学習」について検討する。</p> <p>・特色化事業を活用し、国際社会で活躍できる力の基礎を育む。</p>	<p>・年2回の授業交流（公開授業）を活用し、教科指導力の向上を図る機会を設ける。また、年2回の学習時間調査を活用し、生徒の家庭学習の時間を確保させ、学力の定着と向上を図り、希望進路の実現につなげる。教科と学年部と連携しながら、昨年度より30分程度の増加を目指す。</p> <p>・昨年度から導入された電子黒板機能付きプロジェクターを含め、ICTを用いた授業について、更に研究を進める。また、可能な範囲で遠隔授業についても検討を始める。</p> <p>・部長会議や教科主任会を中心に、令和4年度実施の「教育課程」と「探究型学習」について検討を始め、菟道高校としての今後の在り方を考えていく。</p> <p>・特色化事業（グローバルネットワーク京都の取組）を通して、国際理解に対する興味・関心を高め、国際社会で活躍できる力の基礎を育む。</p>	B	B	<p>年度当初の臨時休業に伴い、時間割や行事予定など多くの面で変更を余儀なくされたが、可能な限り早く提示し、混乱を避けるよう努めた。交流カードを使った授業交流を予定どおり年2回実施した。ICTを活用する授業が増え、交流期間を通して一定交流が進んだと考えている。ただオンライン授業や動画配信についての研究は一部の教員に限られ、コロナ禍の状況を考えるとClassiの活用を含め更に活用を推進する必要がある。</p> <p>令和4年度入学生の教育課程や「総合的な探究の時間」については、カリキュラム検討会議での意見を踏まえ、教科主任会で検討を重ねた結果、概ね全体図を示すことができた。ただし、1年の「探究活動」について</p>

					ては、今後も継続して検討が必要である。 特色化事業では、グローバルネットワーク京都交流会が中止となったが、SDGsに関わる活動を学年と連携しながら取組を進め、一定の成果を上げた。
生徒指導部	・自他の生命を大切にす豊かな心を育成し、互いに支えあう生徒集団作りを目指す。	・交通安全指導や集会などを通して、生徒の安全に対する意識を高めるとともに、交通ルールの周知を図ることで、登下校時の生徒の安全を守る。交通事故件数を10件以下に抑える。 ・毎朝の校門指導や校内で教員が率先して挨拶することを通して、自然に挨拶をする雰囲気在校内に醸成する。 ・学年部、他分掌と連携して、生徒にスマートフォン・携帯電話に関する規定を守らせることで、落ち着いて学習できる環境作りを行う。 ・いじめアンケートを活用して、いじめの早期発見と対応を行い、いじめのない生徒集団の形成を目指す。	C B A B	B	・さまざまな機会を利用して、交通ルールを守ることや、地域に配慮して交通マナーを守ることなどを伝えてきたが、事故件数は17件あり、昨年の18件と大きく変わらなかった。 ・スマートフォン・携帯電話に関する指導件数は大幅に減少をした。休み時間、授業中も落ち着いて学習できる環境が作れた。
	・基本的な生活習慣を確立させるとともに規範意識を高める。	・学年部、他分掌、各教科と連携をとり、組織的に制服・頭髪・化粧など、身だしなみの指導を行う。 ・生徒会、風紀委員会等を通して、ルールやマナーを周知させ、生徒自らルールを守る意識を高めさせる。携帯電話等に係る指導については、年間50件以下を目標とする。 ・講演会や講話などを通じてSNSに係る諸問題を生徒に理解させるとともに、学年部、教科と連携してSNSを適切に利用するよう指導する。 ・生徒アンケートの「授業中は落ち着いて勉強できる雰囲気がある」とする項目の肯定的な回答が80%以上となることを目指す。	B A A B	A	・新型コロナウイルス感染拡大に伴いマスクを着用していたため、化粧の指導はほとんどなかった。第一ボタン、女子のスカートの指導は一部の生徒に繰り返して行っているのが現状である。担任、教科担任と連携をして指導をしていく必要がある。 ・携帯電話に係る指導件数は24件と昨年度の55件と比べて大幅に減少した。全教員で分担して昼の巡回をした効果でもある。 ・SNSに係る指導件数も減少した。
	・学校行事、生徒会活動、部活動、ボランティア活動等に積極的に参加させることで菟道高校生であることの自覚と責任を高める。	・学校行事、生徒会活動、ボランティア活動、主権者教育などを通して、周囲と協力して目標を達成する生徒の育成を図る。 ・生徒アンケートの「学校行事は活性化している」の肯定的な回答70%以上、「ホームルーム活動や生徒会活動は充実している」の肯定的な回答70%以上となることを目指す。 ・学期に1回、部活動の部長会議を開き、菟道高校の代表者としての責任と自覚を持たせ、主体的に活動する部活動を組織させる。	A B B	B	・新型コロナウイルスの影響で、菟道祭や体育祭の開催も危ぶまれたが、制限された中で実施することができた。生徒もクラスで協力して取り組むことができた。 ・学期に1回、部長会議を開くことはできたが、部活動員に係わる外部からの苦情電話が多数あり、まだ責任ある行動がとれているとは言えない。
進路指導部	・学年団・各分掌・教科と協力して、生徒の希望進路の実現に向けて組織的にサポートするとともに、人生における自己実現力、幅広い人間性を身につける。	・85%以上が4年制大学進学を希望している現状を共通認識として、進路HR・模擬試験・夏期菟活・冬期菟活・二次指導などの進路行事を効果的に実施できるよう企画・運営する。その際、他分掌・各教科と連携しながら、生徒達にとってより効果の高い進路行事を実施する。 ・各種進路研修会の案内を通じて、教員の進路指導の研修の機会を提供し、入試動向の研究や模擬試験の分析などの情報を共有し、指導力の向上を図る。	B B	B	・新型コロナウイルス感染拡大の影響から、模擬試験の外部受験ができなくなったが、すべて校内で実施することができた。様々な進路行事を変更せざるを得ない状況であったが、できる限り学習の機会やその質が確保できるように努めた。 ・大学の説明会や入試研究会のほと

		<ul style="list-style-type: none"> ・新入試・新学習指導要領に向けての準備を進める。新調査書についてはポートフォリオの活用の仕方について研究し、2021年度入試に対応できるよう準備する。また、大学入学共通テストに向け、プレテストなどを活用するとともに、研修会などの情報を共有し、各教科の指導がスムーズに行えるようにする。 ・自身の生き方や在り方を考えさせる「キャリア教育」、幅広い人間性や人権意識を育てる「人権教育」を、各学年の適切な時期に計画的に実施し、自己実現能力と幅広い人間性を育む。 	B		<p>んどが、オンラインや書面開催となったが、情報を共有し、研修する機会を提供できた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な部分で変更点も大きかったが、他分掌と連携を取りながら適切に対応できた。共通テストに向け、模擬試験の問題や共通テスト対策の問題集を整備するなど、対策が立てやすいように環境を整備した。 ・「キャリア教育」や「人権学習」は、変更せざる得ない部分はあったが、柔軟に対応し、効果的に実施できた。
図書部	<ul style="list-style-type: none"> ・教科や他分掌との連携、図書館の刊行物の発行や図書委員会活動などにより、生徒が落ち着いて読書に親しむ環境をつくり、良いかたちで読書習慣を身につけられるよう指導を行う。 ・視聴覚機器の整備・充実を図ることで、ICTを用いた授業その他諸活動での有効利用を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員推薦図書の紹介冊子『菟道の泉』を年1回、図書館便り『あじろぎ』を月1回発行することで、読書の楽しさや「読む」という行為の大切さを発信し、「言葉の力」の育成を図る。また、教科や分掌と連携し、教科横断的な学習も視野に入れつつ積極的な読書指導を進める。 ・図書委員会活動を活発に行い、「ライブラリーニュース」の発行や、図書館でのブックフェアを通じて読書に親しむ機会を提供する。 ・エクセレントリーダー賞やベストリーダー賞を設けることで「多読の勧め」を行い、生徒の読書習慣の啓発を行う。 ・授業や行事の充実に向けて、教科や他分掌と連携して視聴覚機器の有効利用を進める 	B B B B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・『菟道の泉』や『あじろぎ』についてはほぼ予定通りの形で発行できた。 ・エクセレントリーダー賞は昨年と同じく2名受賞した。 ・グループ学習に制限が設けられたため図書館での授業が減少し、一人当たりの貸出冊数も昨年3.8冊から2.8冊に減少した。 ・図書委員会はブックフェアや葉コンテストの企画・告知・実施に活躍し、読書啓発に努めた。 ・視聴覚教室にHDMIが設置され、使いやすくなった。 ・視聴覚教室の利用数は昨年に比べて増加した。大きなスクリーンはICT授業に有効である。
保健部	<ul style="list-style-type: none"> ・自他の生命を尊重するとともに自己の健康管理に努め、心身ともに健康で安全に生き抜くたくましい身体と豊かな心を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健委員会活動等を通じて身近な健康課題について考える機会を提供し、主体的に自己の健康管理を実践できる力を養う。また講演会等を通して性に関する問題や薬物乱用防止等の指導を行う。 ・教育相談の充実を通して、安心安全な学校生活を送れるよう支援する。様々な課題を抱える生徒については、家庭や地域、関係諸機関、スクールカウンセラーと連携しながら発達段階に応じた教育的、心理的な支援を行い、気軽に相談できる体制づくりに努める。ユニバーサルデザインの視点に立った教育活動を学校全体で行えるよう、情報交換を密に行い研修会の充実を図る。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対策として、消毒物資等がそろわない中、状況を見ながら全校体制でできる限りの感染予防に努め、現在も継続している。 ・保健委員会で感染症予防のポスター作成・保健委員会便り・昼食時の放送を通じ感染防止や衛生管理意識の向上に努めた。 ・定期健康診断は学校医と連携し感染対策を行いながら例年とはスケジュールを変更して行った。現在も日々の健康観察を継続している。 ・講演会は新型コロナウイルス感染症対策を講じて実施できた。生徒はそれぞれ講演の内容について理解を深めた。 ・学校再開後、学校生活(学習課題、進路など)に対する不安から不適応を起こす生徒が目立った。今年度はSC配置時間を増加し週1回継続的に相談対応できた。来年度も配置時間増を希望し丁寧な対応を行いたい。

				<ul style="list-style-type: none"> ・支援センターとリモート巡回相談を9回行った。今後も新型コロナの影響で途切れることなく支援を継続していきたい。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・環境に対する関心を高め、環境の美化、保全のため主体的に実践できる態度の育成を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ・美化委員会活動等を通じて主体的に清掃活動に取り組む態度を養い、環境美化及び環境保全の啓発活動を行える体制作りをする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・感染拡大防止対策として、清掃時間帯と清掃分担を変更して限られた時間内にできるだけ環境美化を維持する工夫をした。 	
総務企画部	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校や地域社会に対して、学校への理解と信頼を深めるために広報活動全般の推進を図る。 ・ICT教育の推進、支援を積極的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校説明会、学校公開、部活動体験をはじめ、中学校訪問や塾の説明会、さらにUJI学などの運営・調整を通して、中学生や保護者、地域の人たちが本校への理解を深められる取り組みをする。 ・学校説明会・学校公開等の年間参加者が1000人を越える広報活動を行い、説明会参加者アンケートの満足度95%以上を目指す。 ・学校案内、ポスター、ホームページ（HP）、PTAメール（まちこみメール）等の広報媒体の作成、管理、更新を行い、広報活動全般の推進を図る。 ・PTA諸活動を全会員に周知するとともに、積極的参加を募るよう努める。 ・ICT教育の計画、提案、ハードウェアの整備等に努める。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急事態宣言を受け、学校休業で登校できない生徒と、健康面、学習面の情報をWebを通じて収集できるよう努めた。 ・コロナの影響で多くの学校説明会や塾の説明会だけでなく、PTA諸活動もその多くが中止になったが、代替案を適宜考案し、実施することができた。 ・学校公開はタイムテーブルの変更もあったが、大きな混乱なく終えることができた。 ・本校で初めて菟道オンラインミーティングを実施した。遠隔地からも学校説明が可能なことがわかった。 ・学校案内、ポスター、HPだけでなく、学校案内DVDも作成するなど、広報媒体の作成に努めた。 ・説明会参加者アンケートの満足度95%以上は達成できなかったが、概ね好評であった。 ・ICT活動支援をハード面、ソフト面ともに積極的に関わった。特にファイルサーバの刷新、iPadの活用推進に関わり支援に努めた。
第1学年部	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣を身につけさせ、集団生活による規範意識の育成を図る。 ・進路希望の実現に向けて、学習習慣を確立させて基礎力の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・初期指導期間において授業規律・校則順守に対する意識向上を徹底させる。 	B		<ul style="list-style-type: none"> ・授業規律・校則遵守に対する意識は概ね良好であった。感染症対策についても、生徒は注意深く行動し、予防に努めた。 ・学校生活への適応に困難を示す生徒もいたが、保健部・生徒指導部と連携し、指導を行った。 ・SNS関連の指導を一層充実させる必要がある。
		<ul style="list-style-type: none"> ・手帳等を活用し、時間管理能力を身につけさせ、学習と部活動の両立を実現させる。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの生徒が手帳を活用し、課題提出等、学習について管理ができた。一部生徒は、課題の整理、時間管理等に問題を抱えているが、教科担当者・担任が粘り強く付き添った。 ・学習と部活動に対して、多くの生徒が積極的に取り組んだ。

		<ul style="list-style-type: none"> ・授業を中心として予習、復習の学習スタイルを定着させる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的な学力は例年並みと思われるが、低学力の生徒も多く見られる。次年度に向けて効果的な学習指導を検討していきたい。 ・classiや模試のデジタル機能を活用した効果的な復習など模索していきたい。
		<ul style="list-style-type: none"> ・進路学習を通して自己の進路に興味・関心をもたせ、3年間を見通した学習計画を立てさせる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導部と連携し進路指導を行った。 ・ICTを活用し、学年独自の観点も含め指導を計画した。
第2学年部	<ul style="list-style-type: none"> ・自己理解を深化させるとともに、集団生活における自己のあり方を考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個に応じたきめ細かい指導を心がけ、高校生として望ましい規範意識、生活習慣を身に付けさせる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・概ね規律ある学校生活を確保することができた。 遅刻が多い生徒には、個別指導を実施したが、なかなか改善に至らない生徒がいた。次年度も継続的に指導していきたい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・進路希望の実現に向けて、基礎学力の定着と主体的に学びに向かう姿勢を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を中心とした予習、復習の学習スタイルを定着させ、学習と部活動の両立を実現させる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの生徒が授業や部活動に積極的に参加できた。 ・毎日、学習時間調査を実施し、家庭学習時間の把握に努め、家庭学習時間の増加を促すことができた。
		<ul style="list-style-type: none"> ・進路学習や手帳活用を通してPDCAサイクルを確立させ、家庭での学習計画、2年後を見据えた進路計画を立てさせる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・進路HRや面談を通じて、多くの生徒が進路目標を明確にすることができた。 次年度はより詳細な進路計画を立てさせて、希望進路実現に向けた指導を継続していきたい。
第3学年部	<ul style="list-style-type: none"> ・望ましい集団と自己のあり方を考え、成熟した判断とそれに基づいた行動ができる力を育成する。 ・主体的に学びに向かい、自己の可能性に挑戦する姿勢を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集団における規範意識を向上させるとともに、自らの言動に責任を持たせる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・概ね自らの言動に責任を持ち、集団として規律ある学校生活を送ることができた。 ・面談を重ね、自らの課題解決に向けて主体的に行動できるようにサポートできた。 ・進路指導部や各教科と連携しながら、進路指導や放課後補習に取り組んだ。 ・夏期免活や土曜講座等が中止になる中、自主的な学習を実現し、多くの生徒が希望の進路実現に繋げることができた。
		<ul style="list-style-type: none"> ・個に応じたきめ細かい指導を心がけ、自らの課題を解決するための過程を模索させる。 	B	
		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の希望進路実現に向けて、進路指導部や各教科との連携を密にし、組織的な進路指導にあたる。 	B	
		<ul style="list-style-type: none"> ・手帳活用やポートフォリオ作成、進路学習や講習への参加等を通じて、PDCAの確立と自主的に学習に向かう意識を持たせる。 	B	
事務部	<ul style="list-style-type: none"> ・予算計画に基づく効率的かつ効果的な予算執行 	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の学校運営経営方針や経営目標を達成するために、教育内容を理解し、より効率的な予算執行を行うため各部・各教科へのヒアリングを十分行う。 ・計画的な予算執行の中にも、感染症拡大防止等の時機に応じた瞬時の対応が図れるよう努める。 ・府立高校特色化事業をはじめ、本校の教育内容に沿う府の事業等を積極的に活用、推進する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策と学習保障の取組を推進するため、学校教育活動再開事業費等を活用した効果的な予算編成が図れた。また、スマートスクール推進事業やGIGAスクール構想における校内ネットワーク整備などを積極的に活用し、ICT教育環境の整備が図れたが、スムーズな納品には課題が残った。 ・施設・設備の不良箇所の早期発

	・安全な施設・設備の管理	・日常的に校内巡視を行い、不良箇所等の早期発見に努める。老朽化した箇所については計画的に修理し、学習環境の充実を進める。 ・工事や修繕の実施は、校内調整を十分に図り、生徒・教職員が安全に学校生活を送れるように計画・執行する。	B	見、早期修繕に努めた。 ・今後も、老朽化対策を計画的に実施していく。 ・文書の引継ぎ・廃棄を適正に行った。引き続き個人情報管理について、職員にも指導し適切に行った。 ・学校行事が計画どおりに実施できない状況の中、体育祭や学校公開を教職員と連携して実施できた。 ・学校行事や教育活動等への、事務部からの積極的な発信が不十分であった。
	・効率的な文書事務の徹底	・施設・設備の不良に起因する事故を0件とする。 ・文書の起案・審査・決裁・施行・廃棄等の取扱いを、文書取扱主任を中心に、事務部および各分掌等へも指導し徹底する。	A	
	・学校経営に参画する事務職員の育成	・個人情報の管理を適切に行う。 ・開かれた学校づくりを進め、本校の魅力や特色について情報発信の方法や内容を工夫し、地域や中学生の理解と信頼を得るため、学校説明会および学校公開において、教職員と連携し積極的に参画する。 ・学校行事等へ積極的に参加・参観し、学校全体の業務や事業について俯瞰し、教育的視点も持ちあわせて業務に活かせる事務職員を目指す。	B	

評価領域 (教科領域)	重点目標	具体的方策	評価		進捗状況(成果と課題)
			項目	総合	
国語科	<ul style="list-style-type: none"> 語の意味や文章の構造、言葉の働きや役割を理解し、読解力を身につけさせるとともに考える力を培う。 新学習指導要領並びに大学入試改革に対応可能な、主体的・相互的で深い学びの授業が行えるよう研究を進める。 読書活動や調べ学習などの活動を充実させ、「言葉の力」の育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 単語や文法事項の定着のため、小テストや課題を継続的に課し、文章構造を意識した読解をさせるとともに、自らの考えを形成させるよう指導を行う。 ICTを活用し、学習した内容を補足する資料や、異なる複数の意見に触れさせることで、自らの考えを深めさせる授業ができるよう、方法を研究する。 図書室・情報処理室も活用しながら、グローバルネットワーク事業との関連の中で、小論文・ポスターセッションを通し、授業でも読書や調べ学習の活動を充実させる。 	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の定着にむけて、小テストや週末課題等の取り組みは継続的に実施できた。 ICTの活用については、更なる有効な活用方法を検討していく。 グループでの話し合いや、図書館等での調べ学習に制限がある中で、生徒に自らの考えを深めさせていくのが今後の課題である。
			B		
			B		
地歴公民科	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の進路希望実現に向けて、新入試や多様化している入試に対応できるよう、組織的に取り組み、質の高い授業を展開することを目指す。 質の高い授業を目指し、新入試に対応するための研修、研究授業や授業公開を積極的に活用したり、ICT活用を推進したりする。 基礎・基本的な内容の定着を図るとともに、学習意欲の向上させることを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 小教科の担当者同士の打ち合わせや意見交換を密にし、落ちつきある学習環境の維持、学習内容の定着、課題を抱える生徒の把握などに努め、粘り強い指導を行う。 質の高い授業を目指し、新入試に対応するための研修、研究授業や授業公開を積極的に活用したり、ICT活用を推進したりする。 計画的に単元テストや小テストを実施し、適切な課題やレポートを課しフィードバックを行うことで、学習習慣や基礎学力の定着を図る。生徒の学習意欲を向上させるため、教科横断的な取組を行う。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 学習環境の維持、学習内容の定着、課題を抱える生徒への丁寧な対応を行うことができた。単元テスト・小テストは、計画的に実施した。また、ICTの活用については、日々の授業での活用が行われている。 ICTの活用をさらに推進し、生徒の理解を深め興味関心を高めることができるものとしていく。教科横断的な取組をさらに充実させるため、授業開発を行っていく必要がある。
			B		
数学科	3年間を見通した学習指導を行い、希望進路の実現につながる学力を一人一人につける。	・より質の高い授業をするよう努めるとともに、実力を育成するための十分な演習時間と質を確保する。	A		授業の中で、問題演習の時間と内容の質の確保に努めた。 共通課題だけでなく、各担当講座に

		<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の意識を高めるため、各時の課題を明らかにし、明確な目標を持って学習に取り組み、自ら学力を伸ばす生徒を育てる。 	B	B	<p>対応した課題を提示し学力を伸ばす工夫をした。</p> <p>ICTを活用した授業を数多く試行錯誤し、指導法を研究した。</p> <p>共通テストに向けて一定の研究ができた。今年度の結果を基に、次年度以降、さらなる研究が必要である。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを有効に活用する授業について研究する。 	A		
		<ul style="list-style-type: none"> ・大学入学共通テストに対応した問題の研究をすすめる。 	B		
理科	自然科学に対する生徒の興味・関心・意欲を高め科学的なものの見方や考え方を身につけさせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に演示実験やプロジェクター、電子黒板などのICT教材を効果的に活用する。また、アクティブラーニングの手法を取り入れ「主体的・対話的で深い学び」を促進する。 ・実験・実習を年間3回以上実施し、レポートの作成方法を指導して全員に提出させる。また高大連携事業などにおけるプレゼンテーションなどを通して、探究的に学ぶ姿勢を養う。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス予防のため、グループワークなどの対話的な活動ができなかった。また、実験も予定より少ない実施であったが、器具の共有を避けるなど感染症対策を徹底して行うことができた。 ・プロジェクター、電子黒板などICT教材を活用し指導を行うことができた。更に効果的な活用できるよう研究をしていきたい。 ・家庭学習の習慣と基本事項の定着のため適切な課題を設定できた。
	進路選択に対応できる学力を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の順序や内容を適切に組み立て、効果的な指導を行う。学習内容の定着のため可能な限り問題演習をさせ、演習ノートを年間5回程度提出させる。 ・小テストや課題テスト等を適宜実施し、基本事項の定着を図る。授業と家庭学習の関連付けを明確にし、学力補充や進学補習にも積極的に取り組ませ、進路実現のために必要な学力を身につけさせる。 	B		
保健体育科	<ul style="list-style-type: none"> ・運動実践や体育理論を通じて、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、運動することの意義を理解させる。 ・自己に応じた体力の向上を図り、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する能力を付けさせる。 ・感染症を含め、健康や安全について理解を深め、生涯を通じて自らの或いは社会の健康を管理し改善していく能力を付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・限られた運動施設・設備の中で、可能な限り生徒の興味関心のある運動を選択させ意欲的に取り組むようにさせる。 ・選択制授業を通じて、自ら計画を立案し、運動やスポーツに取り組むことができる基盤を作り上げる。 ・体育理論での講義を通して、運動やスポーツに対する文化や身体の構造を理解させる。 ・事故や怪我がないように、用具の使用法や安全に留意させる。 ・健康を管理し、改善していくための、情報を提供する「発表」とその情報をまとめる「収録作り」を実践させる。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナ対応を工夫し、指導が徹底できた。 ・新型コロナにより、種目を制限した中での実技であったが、生徒は興味深く取り組むことができた。 ・授業時数が少なく技術を十分に体得できない種目があった。 ・マラソン大会がなくなり、長距離走に対する生徒のモチベーションの低下が予想されたが、例年通り真剣に授業に取り組んだ。
芸術科	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な技術の定着を図り、意欲的に活動する姿勢を育成する。更に、定着した技術を基に独自に応用する能力を身に付けさせる。 ・それらの活動を通じて、自国・他国の文化芸術を尊重する人材を育てる。 ・豊かな創造力を下に、主体的に考え自ら問題提起し解決に向けて行動できる能力を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲や創造性を引き出せる指導法の研究と教材の精選をすすめ、生徒の創造力を向上させる授業を行う。 ・芸術祭を中心に発表させることにより、自己の作品・演奏に責任を持たせるとともに、鑑賞指導の充実を図る。 ・授業で学んだ事が社会とつながるものにする。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・指導法の研究や教材の精選のため研修に積極的に参加できた。それにより、生徒が自ら疑問を持ち探求する授業を実施した。 ・2月にオンライン芸術祭を実施した。 ・授業を通じて社会問題に関心を持った。
英語科	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭での学習習慣を身に付けさせ、基礎学力の定着を図る。さらに、それぞれの進路希望に 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のねらいを理解させた上で、小テストや各種テスト、課題を計画的に設定し、学習習慣と基礎学力の定着を図る。 	B		<ul style="list-style-type: none"> ・実情に応じて細かく課題を設定し、学習習慣の確立や定着度の確認

	<p>対応できる実践力を養う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語学習への意欲関心を高め、自主的・主体的に学習に取り組む姿勢を身に付けさせる。 ・知識・技能の習得にとどまらず、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成し、思考力・判断力・表現力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・GTECや英検、各種模擬試験を通して、定期的に英語運用能力を確認するとともに、課題克服に向けた取組を積極的に授業に取り入れる。 ・生徒の興味・関心・能力に応じた教材を選択し、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4技能を総合的に育成する言語活動を授業に取り入れる。また、言語活動に対する効果的なフィードバックや評価方法について工夫を加える。 ・外国人指導助手との意思疎通を十分に図り、積極的なコミュニケーション活動を促す。 ・授業の中にICTを効果的に取り入れ、教科内で共有する。 	B		<p>に役立てることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新生活様式下で言語活動に制限があり、4技能を意識した授業が難しい状況にあったが、可能な範囲でコミュニケーション活動を取り入れることができた。外国人指導助手との授業も継続して行った。 ・授業でICTを効果的に活用できた。Classiの活用についてもさらに進めていく必要がある。
家庭科	<ul style="list-style-type: none"> ・実践的・体験的な学習を通して、主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成する。 ・基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、学んだ事を活用できる力を身に付けさせる。 ・生活の中から生徒自身が見いだした問題について、課題を設定し、解決する力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災や安全、環境に配慮した生活を工夫することができるようにする。少子高齢化、食育、成年年齢の引下げ等、社会の変化への対応を一層重視する。特に、子どもに対する理解、子どもとのコミュニケーション能力の育成を図るために、体験的な学習を積極的に取り入れる。 ・外部講師による講演を通して、我々を取り巻く社会状況を把握し、自らの生活課題の解決方法を探求し、問題を解決する力を育てる。 ・体験学習ごとにレポート提出を課すことにより、学んだこと感じたことを自分の言葉で表現する力を養う。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園実習や調理実習が重要であるが、新型コロナウイルス感染拡大防止のために今年度は実施できなかった。 ・実習前の手洗い、換気等の感染対策を徹底し、被服実習やグループワークなどの体験的な学びを行った。 ・すべての授業でICTを活用し、図や写真、板書事項を効果的に提示することができた。作品製作の手順もスライドで提示したので密を避けて実習をすることができた。
情報科	<ul style="list-style-type: none"> ・課題や目的に応じて情報手段を適切に活用することを含めて、必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造し、受け手の状況などを踏まえて発信・伝達できる能力を養う ・情報活用の基礎となる情報手段の特性の理解と、情報を適切に扱ったり、自らの情報活用を評価・改善するための基礎的な理論や方法の理解をさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時代の流れに応じた授業内容となるよう、時事の話題を随時授業に取り入れ、様々な事象に対し、自らが問題を発見し、仮説をたて、情報を収集、分析した結果をふまえて仮説の実証に取り組ませる。 ・コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力の育成を図るために、校内、校外で各種コンペティション（ビジネスアイデアコンテスト・地域活性化プログラム等）に積極的に取り組ませる。 ・基本的なコンピュータリテラシー（タッチメソッド・表計算・プレゼンテーションソフト等）を講義、実技を通して身につけさせる。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・時事問題をあらかじめ担当生徒に提供し、問題発見、仮説、情報収集、分析、さらにその結果をプレゼンテーションさせた。 ・ソーシャルビジネスアイデアのコンペティションに積極的に取り組ませた。 ・多くの情報を収集しつつ、商品開発にグループで取り組ませ、校内コンペティションを実施した。 ・基本的なコンピュータリテラシーに取り組ませた。多くの生徒がタッチメソッドスキルを向上させ、表計算ソフトに関する知識と技術を獲得した。

<p>学校関係者 評価委員会 による評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ SNSなどを積極的に活用し、保護者に継続的に学校の様子を知らせる工夫を行ってほしい。 ・ 落ち着いた学習環境で生徒が学校生活を送っていることをもっとアピールしてほしい。 ・ 新型コロナウイルス感染症の影響もあったが、文化祭・体育祭など行事が実施できたことはありがたい。 ・ 個々の生徒がタブレット端末を持つ時代となる。ICTのさらなる活用を工夫してほしい。 ・ 「チーム菟道」・「10年後の満足」のキャッチフレーズを考え直していく時期ではないか。 ・ 学校行事などが従来どおりにできない状況の中、実施の有無も含め、新しい形を創ってもらいたい。 ・ 学校評価アンケートの回答について、理由記述欄を設けることで改善につなげてほしい。
----------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>次年度に 向けた改善の 方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本校の校訓である「さとく」「さやかに」「たくましく」を全ての教育活動の中に具現化するため、より質の高い授業を実践し、部活動をはじめ特別活動の充実を図る。 ・ スマートスクール推進事業の成果と課題を踏まえ、ユニバーサル・デザインの観点に立ったICT教育を推進していく。 ・ 校内組織を有機的に連携させ、全教職員が最大限の教育効果を上げる意識を常に持ち、職務を協働的に取り組む。 ・ 広報活動において、卒業生や在校生が直接中学生や保護者に語る機会を設け、菟道高校生の良さをアピールし生徒募集につなげる。 ・ 自転車交通安全や携帯・スマートフォンの利活用などについて、時機を逃さず継続的に指導を行っていく。 ・ 特色化事業で得た知見を基に「探究的な学習の時間」の活動内容を具体的に計画し、円滑に取り組むことができるよう図る。 ・ 校内の施設設備について、可能な範囲で更新をして学習環境を整える。
--------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------